

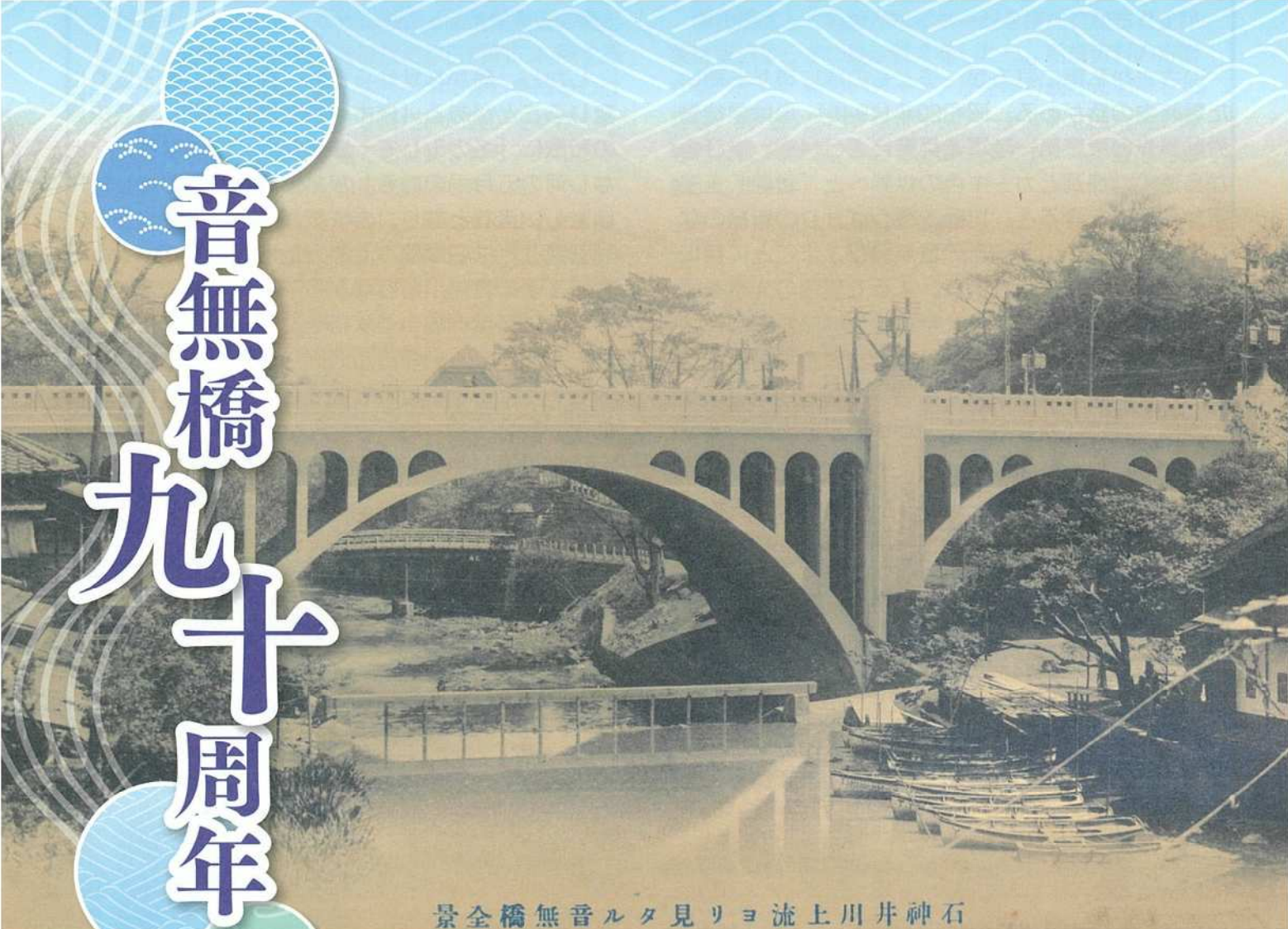
ぼいす

北区飛鳥山博物館だより

2020.9.20

45

音無橋 九十周年



石神井川上流ヨリ見タル音無橋全景

音無橋開通記念絵はがき 当館所蔵



音無橋開通記念銀製茶卓（竹・梅）（表面）当館所蔵



音無橋開通記念銀製茶卓（裏面）当館所蔵

音無橋九十周年によせて

大地・水・人

石倉 孝祐 (当館学芸員)



いささか私事に亘るが、子どもの頃に母から聞いた戦時中の話がある。昭和20年(1945)、母は学徒勤労働員先の東京第一陸軍造兵廠に通う14歳。学び舎から遠く、煉瓦とカーキ色の世界へと「省線」王子駅から坂道を登ると、川面を覆うばかりの新緑のなかに架かる三つのアーチの音無橋が、まことに目にも眩しく美しかったという。まるで異国の光景を思わせ素敵だったと、昔の女学生らしい感慨をいくたびも聞かされたものだ。だが、悲惨な空襲の話とともに母が語る「おとなし」という響きには、どこか不思議な綺譚が秘められているようで、今もしきりに思い出されてならない。

古来、溪谷を開析して流れる石神井川は、王子神社付近では音無川と呼ばれていた。音無川とは、熊野三山ゆかりの紀州音無川に因む。熊野本宮は現在でこそ高台にあるが、もとは熊野川・音無川・岩田川の合流点の中洲に鎮座し、神域に入るには、音無川を徒歩で渡らねばならず精進潔斎の場としていたようだ。院政期の熊野信仰の昂揚によって全国に熊野系の神社が分祀されたが、はたして王子神社も在地領主豊島氏の開発した熊野領荘園の鎮護神として勧請され、川名も分社とともに伝えられた。

しかし、静かなせせらぎも一変して、^{ほとけし} 進る流れに変わることがある。『続古今和歌集』左中将 藤原忠資の和歌に「名のみして 岩波たかく聞ゆなり をとなし河の五月雨のころ」がある。水かさの増した川は激しい流れとなり、岩に波がぶつかるさまから、「音無」とは名ばかりであったと詠われている。一方、王子の音無川も石堰から下る流れは水音を響かせ、時に奔流となって水害を及ぼした。また険しい地形もあいまって滝野川方面から十条への交通は、坂を下った王子駅付近を廻り込む道を取らねばならなかった。

ここに美しいシルエットの音無橋が架かったのは昭和6年(1931)1月のこと。(なお銘板には「昭和五年十一月成」とある) 盛大な渡り初めが行われ、西ヶ原在住の実業界の偉人・渋沢栄一も開通式協賛会に尽力した。長さ48.8m、幅員18.2m、3径間鉄筋コンクリート固定アーチの高架橋の架橋によって、周辺の交通の便は向上し地域発展の要となった。そして、いよいよ来春、竣工90周年を迎える。

そういえば、勅撰歌人 忠資の和歌には他に「見しことも かはらぬ月の面影や たゞ目のまへの昔なるらむ」(後千載和歌集)が残されている。人の世を映す月、そして大地に刻まれた歴史と風土。音無橋と同じく来年90歳の誕生日を迎える母に、また懐かしい昔の話を聴きに伺おうかと、ふと思う。

【表紙図版解説】

音無橋開通記念絵はがき 当館所蔵

右奥の森は飛鳥山公園、橋の手前には王子石堰が写っていることから、石神井川上流方向から眺めた構図であることが分かります。



音無橋開通記念銀製茶卓(表・裏)
当館所蔵

表面に竹と梅を描き、もとは松竹梅の一具と思われまふ。裏面には音無橋がつないだ二つの街、王子町と滝野川町の名が刻されています。

北区飛鳥山博物館公式 SNS・YouTubeちゃんねる始めました!

みなさまはSNSやYouTubeを利用されているでしょうか?博物館でも公立・私立を問わず、SNSアカウントやYouTubeチャンネルを持っているところが多く、今やSNSやYouTubeは情報発信の場として多くの人々や企業・施設などが日常的に利用するツールとなりました。そんな世の中に後れを取るわけにはいかない!ということで、(だいぶ遅いですが…)この度、北区飛鳥山博物館でも公式SNSアカウントと公式YouTubeちゃんねるを開設しました。

SNSではTwitterを中心に、FacebookとInstagramのアカウントをそれぞれ開設し、当館の最新情報や学芸員による文化財&資料紹介、学芸員のつづやきなど、みなさまが当館に親しみをもち、楽しんでいただけるコンテンツをいち早くお届けいたします。

さらにYouTubeでは、当館の活動や北区の歴史と文化を紹介する動画を配信します。現在は、夏休みの親子向けに家で手軽に作れる昔のおもちゃなどの作り方を配信しています。今後は区内の文化財を紹介する動画やミニ講座のような内容の配信も考えています。

企画・脚本・撮影・出演・編集すべて学芸員によるものですので、クオリティについては今後の伸びしろに期待していただけると幸いです。

博物館はとても静かなイメージを持たれがちですが、実は毎日少しずつ展示替えをしたり、新着資料の寄贈があったり、新しいアイデアが生まれ続ける場所です。ぜひ、時代に合わせてアップデートする北区飛鳥山博物館公式アカウントのフォロー&チャンネル登録をお願いします!
(工藤)



公式Twitter



公式Facebook



公式Instagram



公式YouTube
チャンネル



もっと知りたい! 常設展

ちょっと気になるこの一品

七社神社前遺跡出土の浅鉢形土器

縄文土器といえば「縄目の文様がある土器」と理解している人、多いのではないのでしょうか。しかし縄文土器の中には、縄目の文様が認められない土器も多々あります。この七社神社前遺跡で出土した浅鉢形土器も、そのひとつです。器面は丁寧に整えられており、でこぼことした縄目の文様は見られません。

ただし、まったく文様が施されていなかったわけではありません。一見すると何も無いように思える側面部をよく見ると、赤色顔料で塗彩された様子を見取することができます。残念ながら鮮明さを欠きますが、実は、その彩色によって文様が描かれていたとみられるのです。当時は、鮮やかな朱色を発した、美しい文様に飾られていたことでしょう。

またこの土器は、形状も特徴的で、口縁部が大きな二単位の波状を呈します。これを見た人からは、「大きな耳がついているみたい」とか「空を飛びそうだ」とか、色々な面白い感想を聞かされます。

このユニークな土器、実は「土壇墓^{どこうぼ}」と呼ばれるお墓から出土したもので、副葬品として捉えられています。おそらくこの土器は、葬られた人への様々な想いととも、お墓に納められたものなのでしょう。

(牛山)



七社神社前遺跡出土浅鉢形土器

企画展

飛鳥山三百年展 楽しい!だから続く、 吉宗が作った江戸のワンダーランド

本展は、COVID-19（新型コロナ・ウイルス感染症）の蔓延により期間を変更して、令和2年6月2日（火）から8月30日（日）を会期として開催いたしました。

展示全体の導入イメージとして、ハワイエには博物図譜に描かれた「飛鳥山桜」と「桜花遊覧図」が来館者をお迎えし、名所の趣を表現しました。次いで第一会場である特別展示室では、徳川吉宗の飛鳥山開発の歴史と公卿 冷泉為久との交流を中心に、吉宗近臣の飛鳥山をめぐる武家歌壇と雅の世界への憧れの姿をお示しました。

第二会場とした講堂では、冒頭に幕末の北区周辺の土地利用図を置き、地域像を広く当時の環境のなかからご紹介しました。地図展示は来館者に好評で、「自分の住んでいる場所の昔がよくわかった」というお声も寄せられました。また、狂歌絵本や地誌に描かれた飛鳥山の賑わい、江戸の花見弁当の再現レ

プリカ、浮世絵など、飛鳥山の多彩な姿をお示しました。さらに幕末に飛鳥山を訪れた外国人の諸記録、明治の太政官公園飛鳥山の整備の状況、江戸の昔と変わらぬ花見風景を示す明治・大正期の絵はがきなどを通じて、飛鳥山300年の歴史と生活文化を通覧する催しとなりました。（総入場者12,834人）

（石倉）



会場風景

Voice

コロナ・ウイルス感染拡大防止対策と博物館

今年は新型コロナ・ウイルス感染症によって社会活動から個人の生活まで変容を強く迫られることになった。実際当館でもウイルスに対しては全く心構えがなく、3月6日から6月1日まで臨時休館を続けるなか手探りで対策を考え、態勢を整えていった。

感染拡大防止という観点でみると、当館は不利な点も多い施設である。たとえば、公開している1～3階のうち、1階・常設展示室以外は無料で利用できる。公園内ということもあってトイレ利用だけを目的とする入館者も非常に多い。

こうした条件下で利用者とスタッフの安全を守るためには、やはり入館時のチェックが不可欠と考えた。幸い出入口は一か所なので、一人ずつ体調・体温確認とマスク着用を徹底することができる。もちろん各階の受付カウンターに飛沫感染防止用スタンドを設置し、閲覧コーナーは当面利用を休止、展示室の人数制限も実施している。

感染拡大が続く限りは運営上の対策を継続するが、より深刻な問題と言えるのはソフト面、つまり展示・普及活動の今後の在り方だろう。これまで当館では触れる展示や講座、体験教室などを頻繁に実施してきたが、年度内の講座はすべて中止とした。

動画やSNSによる発信も一つの方法だが、やはりまた皆さんと「空間を共有」し「実物」を前に「生の声」で伝えたいと願う。Withコロナの時代、博物館の模索は続くのだろう。

（久保埜）



with colona

速報 新指定文化財紹介

北区教育委員会は令和2年6月9日付けで、「^{たきの がわむらと べ けもんじょ}滝野川村戸部家文書」「^{やまかわじょうかん ぼ ひ}山川城官墓碑 ^{つち}附
^{やまかわけ ぼ ひ きねんひ}山川家墓碑・記念碑」の2件を北区指定有形文化財に指定しました。

「滝野川村戸部家文書」

種別：古文書
員数：654点
個人所有（北区教育委員会受託管理）

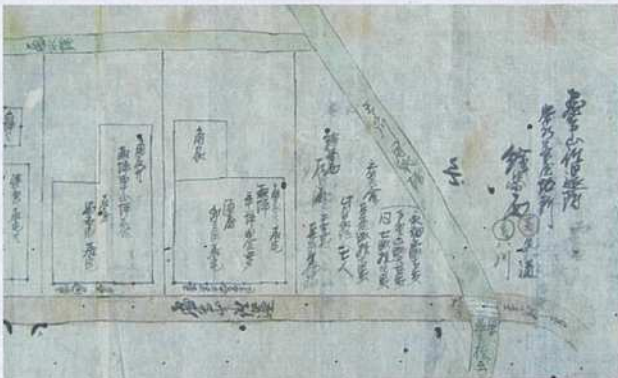
戸部家は、江戸時代に飛鳥山下で締油業を営んでおり、滝野川村の旗本野間領で組頭や年寄を務めた家です。明治時代以降は戸長や滝野川村村長など、公職を歴任しています。

戸部家文書は、江戸時代から昭和時代までの計654点の古文書群です。江戸時代から明治時代初期にかけての文書には、滝野川村の村高や年貢に関するものや飛鳥山下に並んだ茶屋の様子がわかる史料などが含まれます。幕末に滝野川へ建設された大砲製造所に関する史料では、御用地確保をめぐる地域の動向と幕府の対応を読み取れる文書や大砲製造所の配置がわかる絵図が含まれています。

また、近代の文書には、滝野川村の議会や学校設立に関する史料や戸部家での生業や祝儀帳などが含まれています。注目されるのは、明治期の当主が俳諧師であったことから残された句集や書簡などで、正岡子規以前の、いわゆる旧派俳諧師の活動をうかがえる貴重な史料となっています。

現在、戸部家文書は複製製本したものを北区立中央図書館「北区の部屋」で公開しています。

参考：「滝野川村戸部家文書調査報告書」（北区教育委員会、平成25年）、「図録：近代工業化のルーツ 滝野川反射炉展」（北区飛鳥山博物館、平成28年）



飛鳥山下の茶屋の様子

「山川城官墓碑 附 山川家墓碑・記念碑」

種別：歴史資料
員数：山川城官墓碑 1基
附 山川家墓碑 7基・記念碑 1基
所在地：北区上中里1-42-8 城官寺

山川城官貞久は、3代将軍徳川家光の談判衆を務めた人物で、慶長16年（1611）に家光の近習となりました。その後、病気で失明しますが、検校の位まで昇りました。鍼術に秀でた医者でもあり、その技で家光の病気の治療も行っています。「紙本著色平塚明神并別当城官寺縁起絵巻」（北区指定有形文化財平成3年指定）の中では、貞久が家光の病氣平癒を平塚明神に祈願したことや、祈願成就を感謝し平塚明神を再興し、城官寺を建立したことなどが描かれています。後に、家光はこのことに対して貞久に知行地150石、平塚明神に朱印地50石を与えています。

山川城官墓碑は、寛永15年（1638）に建立されたもので、貞久の没年が寛永20年であることから、生前に建てられた逆修墓であることがわかります。形態は、地藏菩薩が彫刻された舟形の墓石で、蓮華座から光背頂部まで約170cmあり、この形の墓碑としては大型の部類になります。城官寺境内にある山川家の墓域には、ほかに一族の墓碑7基と墓碑を修築した記念碑が立っています。

（田中・山口）



山川城官墓碑

参考：澤登寛聡「平塚明神并別当城官寺縁起絵巻の成立」『文化財研究紀要』第6集（北区教育委員会、平成5年）、「文化財係事務事業の概要と実績 四. 台帳登載報告：山川城官一族墓碑群」『文化財研究紀要』第23集（北区教育委員会、平成22年）

モノの記憶

— 収蔵品が語る物語 —

昭和43年（1968）8月、王子本町にて都営アパートの工事現場から大量の古銭が入った甕が発見されました。この出来事は当時話題となり、読売新聞都内版にも掲載されました。その記事によると、「深さ二メートルあたりで」、「一升ダルのほどのヒョウタン形の土ガメ」が見つかり、そのなかには「中国の古銭一万三千枚」が入っていたそうです。工事中に偶然発見されたため精確な記録が残されておらず、それ以上の詳しい出土状況はわかりません。しかし、この大量の古銭は甕とともに取り上げられ、現在は当館に収蔵されています。

当館に収蔵された後は再整理が行なわれ、出土した古銭は総数にして12,749枚、銭の種類は銭銘が不明なものを除けば、すべて中国歴代王朝および朝鮮で製造された渡来銭であることが明らかとなりました。そのなかで最も古い銭貨は初鋳年代が621年の「開元通寶」、最も新しい銭貨は初鋳年代が1433年の「宣徳通寶」でした。また、この大量の古銭は14世紀代に製作

王子本町から 見つかった大量の古銭

された常滑焼の甕に入れられていました。したがって、大量の古銭を入れた甕が地中に埋められたのは、少なくとも15世紀半ば以降と推定されます。

このような大量の古銭を地中に埋めるという行為には、蓄えとしての「備蓄銭」や土地神へ捧げる「埋納銭」などが考えられます。残念ながら、考古学的な記録が残されていないため詳細は知りませんが、王子本町から出土した大量の古銭も中世の人々が何らかの意味を込めて埋めたのでしょう。（高坂）



新聞報道された古銭の出土

写真に見る あの日 あの時

この写真が撮られた場所は王子駅前。向こうにオート三輪が走っているにもかかわらず、道路の真ん中でトラックが止まって荷台の外に人が立っています。そのためか1台のオート三輪が行く手を阻まれ、ボンネットバスがさらに立ち往生。人々もなにやらざわざと集まっている感じです。その人込みのためにダットサンが左折できないようです。普段の駅前の様子とは思えない光景。よくみれば地面が水浸しです。

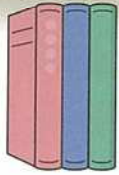
この写真が撮影された日は昭和33年9月27日。そう、あの狩野川台風が関東地方を襲った日なのです。台風は27日0時ころ神奈川県鎌倉付近に上陸し、同1時ころ東京を通過。同6時には三陸沖に抜けました。列島に停滞中の秋雨前線を刺激したことにより、1時間の最大雨量76mmの大雨が降り、各地で河川の氾濫がおきました。石神井川もそのうちのひとつで、王子駅のところでちょうど川幅が狭くなり直角に曲がるため、そこで水が溢れてしまいました。王子駅の改札も濁流にのまれ、付近の1,850戸の家屋が床上浸水。一時は水の深さが2mにもなったそうです。

大混乱の王子駅前

もう一度写真を見てみると、水はありますが車や人が行き来できるほどです。台風が去って少し落ち着きを見せ始めた時なのかもしれません。でも非日常の光景に人々は驚いたことでしょう。最近では台風だけでなく線状降水帯や突然のゲリラ豪雨などが多くなってきました。もう一度水害対策を考えなければと思わせる一枚です。（鈴木）



狩野川台風が去った後の王子駅前の情景



学芸員の本棚



『天皇の歴史1「神話から歴史へ」』

大津透 (講談社学術文庫) 2017年12月刊行
発行所 株式会社講談社 ISBN978-4-06-292481-8
(原本は2010年11月に発行)

「京都より奈良が好きだ」という人は、どれくらいいるだろう。

本を開いて一番最初に目にしたこの文に、私は学生時代を思い出しました。高校時代の修学旅行、奈良から京都に向かう道中、友人の多くが早く京都に行きたいと望む中、友人に同調しつつも奈良の土地をもっと歩いてみたいと心ひそかに願ったものです。著者も述べるように、古代史の中心は奈良に都があった奈良時代と私も考えています。そんな土地に心惹かれたあの頃から、今思えば私はもう古代史研究者の端くれだったのかもしれないと少しこそばゆい気持ちになりました。

この本は『古事記』『日本書紀』などの史料や考古学の研究成果を用いて、邪馬台国の卑弥呼から律令国家形成期までにかけての、後に天皇と表記される古代権力と日本の様相について書かれています。今年2020年は『日本書紀』編纂からちょうど1300年の記念すべき年であることを皆様

はご存じでしょうか。『日本書紀』は日本最初の国史として編纂され、古代史研究においては欠かせない史料です。

著者は「神話から歴史へ」というタイトルについて、戦後古代史研究に大きな影響をもたらした井上光貞氏の同名著作(1964中央公論社)を踏襲することで『日本書紀』の厳密な史料批判を行い、諸本のより深い分析を通じて「史実」を見出す研究法の重要性を再度指摘しています。古代史研究において『日本書紀』はどのように用いることができるのか、ぜひ編纂1300年という記念すべき年にご一読いただきたい1冊です。(谷口)



博物館インフォメーション

◆無料で常設展示がご覧いただけます

11月3日(祝・火)は、常設展示室の無料開館を行います。ぜひこの機会にご観覧になってください。

◆頒布中止の図録印刷物の無料配布

当館では発行から10年以上を経た刊行物を無償配布させていただくことになりました。お一人につき1種類1冊までとなります。経年変化によって破損や汚れが多少付着している場合もございます。あらかじめご了承ください。(配布期間は令和3年5月末まで。無くなり次第配布終了)

◆人物往来

3月31日をもって、長く考古学を担当した中島広顕学芸員が退職いたしました。また、4月1日より、高坂勇佑学芸員が着任し、埋蔵文化財業務を担当しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。



◆ミュージアムグッズ紹介

〈夏用北区飛鳥山博物館オリジナルマスク〉

デザインも涼やかな夏用北区飛鳥山博物館オリジナルマスクを今夏、ミュージアムグッズのラインナップに加えました。おかげさまで在庫すべてが売り切れとなり、さらに増産の運びとなりました。今後も新しい企画商品にご期待ください!



〈北区の名所絵はがき〉

北区の名所絵はがきに、ニューバージョンが登場!好評の江戸時代の浮世絵のほか、明治の開化風俗を描く「東京自慢十二月 十月 滝ノ川の紅葉」(月岡芳年)も新たに製作しました。お好みの一枚を身近に飾ったり、(当然のことながら郵送にも使えます!)

絵はがきグッズをぜひ、おもとめください。



◆がんばる! 実習生

今年の夏も、学芸員資格取得をめざす博物館実習生4名が当館で実習を受けました。常設展示室や体験学習室を舞台に多彩なプログラムのもと、活動に励みました。



SNSで紹介する展示資料の撮影では、「映え」にも留意しました!

さ
坂道で
見つけた
誰のモノ
抜け殻

学芸員リレーエッセイ
博物館
いろは歌留多

5月某日、飛鳥山公園内を歩いていたところ、奇妙な落とし物に出会いました。

「ホースかな？ビニル紐かな？」と近寄ってみると、それはなんとヘビの抜け殻だったのです。模様だけでなく、目のところまでもくつきりと残された、とても綺麗な抜け殻でした。

記憶をたどれば不思議なもので、その数日前には博物館裏手にて、ヘビそのものにも遭遇していた私。視線を感じる方をふと見ると、小さなヘビが金網から顔をのぞかせているところでした。短期間に2度の出会い、これは単なる偶然でしょうか。

職業柄か、このとき真っ先に思い浮かんだのは縄文土器のことでした。縄文土器には、ヘビを象った装飾や文様がしばしばつけられています。なぜヘビなのか、理由には諸説ありますが、ヘビの持つ生命力や脱皮から連想される再生力など、その生態にあやかりたいとの願いを込め、つけられたもののようです。

ヘビ（と、その抜け殻）に出会ったのは、新型コロナ・ウイルス感染拡大防止のため、博物館は臨時休館、講座等も全て中止との対応をとっていた頃の事です。私はこの出会いを、ウイルスに負けるな！とのエールと捉えることとし、未曾有の難局を乗り越える決意を新たにしたのでした。(安武)

利用のご案内

【開館時間】 午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】 毎週月曜日（月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館）

年末年始（12月28日～1月4日）

※このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

	個人	団体	三館共通券※
一般	300円	240円	800円
高齢者 (65歳以上)	150円★		
小・中・高	100円	80円	320円

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・障害者手帳をご提示いただいた場合は、当館の一般券が半額となります。
- ・（障害のある方一人につき、介助者一人まで観覧料が免除となります。）
- ・三館共通券は当館のほか、紙の博物館・渋沢史料館をご覧になれます。
- ★年齢が確認できる証明書をご提示ください。
- ※現在、渋沢史料館の当面の休館にともない、三館共通券の販売は中止となっております。



交通のご案内

- | | | |
|-------------------|------------|------|
| 【JR京浜東北線】 | 王子駅南口より | 徒歩5分 |
| 【東京メトロ南北線】 | 西ヶ原駅より | 徒歩7分 |
| 【東京さくらトラム(都電荒川線)】 | 飛鳥山停留場より | 徒歩4分 |
| 【都バス(車64・王40系統)】 | 飛鳥山停留場より | 徒歩5分 |
| 【Kバス(北区コミュニティバス)】 | 飛鳥山公園停留所より | 徒歩3分 |
- ※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

編集後記

世界的な新型コロナ・ウイルスの蔓延のなかで、当館も3か月近い休館を余儀なくされました。開館以来最大のピンチを迎えましたが、6月2日から開館することができました。博物館自体のあり方も問われるなかで、できることはすべてチャレンジする気構えでがんばります。これまで以上のご声援をお願い申し上げます。(石倉)

令和2年度下半期の催し物案内

「第19回 人間国宝 奥山峰石と北区の工芸作家展」のお知らせ

今年も、北区在住の人間国宝・奥山峰石氏をはじめ、北区とつながりのある工芸作家19名による工芸作家展を開催します。この展覧会では、鍛金・彫金・鑄金・陶芸・人形・木漆・七宝・漆芸・刺繍と、多彩なジャンルにわたる創造性あふれる作品が一堂に展示されます。美しく力感あふれる美の世界を、ぜひご鑑賞ください。

会期：9月12日(土)～10月11日(日)

休館日：9/14(月)・9/23(水)・9/28(月)・10/5(月)

会場：特別展示室・ホワイエ

主催：東京都北区教育委員会

共催：東京都北区

協賛：一般社団法人 王子青色申告会



常設展示室ミニ展示

「渋沢栄一と北区」の開催

常設展示室では、渋沢栄一と北区にちなんだミニ展示を開催しています。飛鳥山に長く居住した渋沢栄一は地域の発展に大きな貢献を果たしました。民間外交の場・地域との交流の場であった飛鳥山邸の姿、一里塚保存運動に代表される地域の文化財への関心、滝乃川学園の教育への支援など、渋沢の多面的な活動をご紹介します。

(期間：令和3年12月26日まで)

※特別展示室・ホワイエ・講堂の工事のため、本年度の秋期企画展ならびに講座は中止いたします。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす45

【発行日】 令和2年9月20日

【編集・発行】 北区飛鳥山博物館

〒114-0002 東京都北区王子1-1-3

TEL. 03-3916-1133

【印刷】 川口印刷工業株式会社